令和5年度第1回 熊本市地域包括支援センター運営協議会会議要旨

- 1 日時 令和5年7月12日(水)
- 2 場所 市役所4階モニター室
- 3 出席委員 東和子、大道友美、貴田雄介、小山登代子、田口慶治、田中弥興、長尾和好、藤井美千代、藤本雅士、本庄弘次、松川あゆみ(五十音順、敬称略)
- 4 議事 (1) 地域包括支援センターの運営状況及び評価について
(2) 次期地域包括支援センターの受託者の選定手続きについて
- 5 その他
 - ・(報告1) 令和5年度 地域包括支援センターの重点的取組
 - ・(報告2) 障がいを抱える高齢者への支援体制の強化について
 - ・(報告3) 地域包括支援センターの移転について

○事務局より

石橋会長から欠席の御連絡あり。地域包括支援センター運営協議会運営要綱第4条第3項に基づき、進行は、副会長へ依頼。

6 議事記録等(要旨)

議事(1) <地域包括支援センターの運営状況及び評価について>

《事務局から説明》

○本庄副会長

まず、資料の1ページ。居宅の委託割合がどんどん上がってきていることについて、恐らく、これから2025年までは高齢者がどんどん増えていくために、この委託率をもっと増やさないと、難しいのかと思います。それだけの余裕があるのか、キャパシティがあるのかどうかということです。

それから、地域包括支援センターを今回新たにまた指定するに当たって、今の数で、今の地域で対応出来てるかどうかということも知りたいですが、その資料はありますか。

○事務局

委託先のキャパシティについて、資料として何かお出しできるかと問われると現時点ではありません。

27圏域で対応できているかという部分に関しましては、包括からの自己評価の結果等を見ますと、現時点では対応できているのでは、と考えております。

○本庄副会長

次回、再指定するに当たって、数の調整やその辺を考える必要はない、ということで良いか。

○事務局

そうですね、この後の御説明になるかなと思っておりますけれども、圏域の数を変更するという点については、必要性が薄いのではないかというふうに考えているところでございます。

○本庄副会長

ではそれを前提に議論していく、ということですね。

では、他にいかがでしょうか。皆さん何か御意見、現場で困っていることなど、特に今回コロナで、色々あったと思う。

例えば評価の中には、今回コロナの中で頑張って、しっかりと事業を続けた包括と続けられなかった包括との差、差別化というか、そういう評価は入っていないのか。

○事務局

評価の際には、別紙にありますように、評価の項目で【コロナ】と書いているところは、基準を設けずに、一律の評価をしているところでしたが、それでも、おっしゃっていただいたように、センターによっては、基準はないけれども、かなり件数として実績を上げているところがありましたので、そのような場合は、コロナ禍前の基準を参考に、その基準よりも1.2倍以上の件数としての実績があれば、行政のほうで1点加点する等の調整をさせていただいております。

○本庄副会長

それは加味してあるんですね。

他にはいかがでしょうか。特に御意見、御質問は。

○貴田委員

5ページの3番の権利擁護事業の、高齢者虐待に関する相談対応について。

表4『虐待への対応に関すること』の、件数が1850となっている。これが年間数として、多いと考えるか、少ないと考えるかということはあると思うが、要は同じケースについて、何度も相談が来て、解決とはいかず、何度も来ているということが、あるのかどうか、一つ気になっている。

それと、虐待といったときに、年長者から若い人に対しての虐待もあるのか。一般的なイメージだと、介護している人が介護されている人を虐待してしまうケースがあると思うが、逆に、認知症があって、介護してくれる、自分の子供や家族に対して暴言を吐いたり、ちょっ

と手が上がってしまったというケースもあるのかなど。それで困っているという相談もあるのだろうか。数では見えないが、いろんなケースがあるのか、と想像する。

これを少しでも少なくしていこうとする取り組みがあるのではと思うが、何か質的な部分でこういった取り組みをしている等、良い取り組みをして評価されているということがあるのかどうか。知りたい。

○本庄副会長

いかがでしょうかその辺は、もし、情報等あれば。

○事務局

虐待の案件は、確かに様々なケースがあります。この相談の中には先ほどおっしゃられたように年長者が、若い方へ、というようなところも様々あるかと思えます。

いろいろな原因として、施設においてはやはり、体制等が十分にとれず、働く方の負担になっているところで、虐待が行われるというようなケースもあろうかと思えます。また、家庭の中では、ヤングケアラーの問題であるとか、そういった色々な事情があろうかと思う。まずは相談を受けさせていただいて、それぞれの区役所や、各所から我々のほうに上がってきて、高齢福祉課のほうで、直接対応させていただくこともある。

その他にも県警やそういったところの、連携体制の中で、確実に介護サービスや、行政のサービスにつなげていくような体制を整えている。

○本庄副会長

よろしいでしょうか。ありがとうございます。ぜひ、今のところは大きな問題だと思う。次回、分かる範囲でいいので、どういう傾向が多くて、どういう対処してという、細かいところでも教えていただきたい。よろしくお願いします。

ほかには御意見ございますか。

○藤本委員

地域ケア会議の部分で、ちょっとお尋ね、御依頼というところでさせていただけたらと思う。実際、こちらの評価の点数的には、地域ケア会議の項目は全部黄色になっていて、回数的には、十分な回数というところは、クリアされている状況なのかなと思ったところ。

ケアマネジャーの提供ケースで会議をされていると思うが、その項目で、地域課題の抽出が出来ました、というような評価の文面があるんですけども、こういった課題が出たのか、その課題に対して、今後どのような対応が出来たのかというような、情報等がありましたら教えていただきたい。

あと、どういう課題が出ましたという点も、何か、現場・地域におろしていただくような仕組みをやっただけでいいかな、と。まずその点について。

○事務局

区役所レベルで、第2層の地域ケア会議というものを開催しており、それに各包括が地域ケア会議で出た課題を集約しています。さらにそこから、市全体での会議、第1層の会議を開催しておりまして、そこでまた各区役所から集約された課題をいただいて、施策展開につなげているところです。

具体的にどういった課題があったかという部分についてはここで列挙することは難しいので別途、資料で御説明させていただければと思いますが、例えば、介護予防サポーターを市で養成をしているが、養成はしたものの、その方々の活躍の場がないというような課題をいただいたところです。ですので、今年度は、試行的ではありますが、介護予防サポーターの地域の通いの場での、例えば講師を派遣してほしいとか活動内容がマンネリ化していますというような、通いの場のニーズとのマッチングや、もうちょっと一歩踏み込んで、実際に生活支援のニーズ、例えばごみ出しが出来ないとか、そういったニーズとのマッチングをやってみようという事業を検討しています。今、このようにいろいろと準備を進めているところで、具体的な解決に向けた事業展開もさせていただいているところです。

またどういった課題が出たか、につきましては関連の資料等を次回、10月の会議でまた報告させていただきたいと思います。

○本庄副会長

認知症サポーターも一緒ですよ。

○藤本委員

ぜひ読ませてほしい。実際、ケアマネジャーとして課題を準備することが業務的にも負担が大きいというような声は上がってきている。何か、それが終わった中で、充実感ではないですけれども、やって良かったなというものが、現場に落とせたらな、と思います。

○本庄副会長

それも大事な問題だと思う。

特に課題を準備した場合の、関わった人たちのサポートとか、それに関する具体的な取組みをぜひこの場で教えていただければありがたい。

ほかに御質問等ございませんか。

○藤井委員

認知症コールセンターで、相談業務をしている。いろんな相談が寄せられてきますが、そのときに、この家族支援というところ。先ほど虐待についての御質問がありましたが、虐待したくてされてる方はまずいらない。やはり、そういうふうな追い詰められた形で、

虐待というケースにつながるってということがすごく多いと思う。

実際、家族の会の中のお世話の方のお話を聞いてると、ものすごく一生懸命ケアをするけれども、つい、手を上げてしまうというケースがいくつもある。その方が亡くなった後でも、そのことを非常に悔やんでいるっていう方のお話を直接聞く機会が多くございます。

運動のようなプログラム、皆さんが集まって、楽しい時間を過ごすという、サロンのようなことありますけれども、家族支援というところから見たこの集いのような形、そういったことはどの部分に入るのかなと。包括の中にそういった役割があるのではと思うんですね。

そして、御家族の方は、ケアマネさんもいる、医療もつながっている、包括の人ともいろいろ相談している、だけれども、認知症に対するケアのつらさを、やっぱりどこかで分かってほしいというのは、そのような当事者の集まりだと思う。

認知症の方もどんどん増えてくると思いますし、行方不明の方もたくさんいらっしゃるという話の中で、こういう介護者のサポートする、労働介護がとても多いと思うので、特にそういった部分で包括のほうでも、相談の中でも、そういった場所に行かれるといいなと思う。あるところと、ないところ、またコロナ禍の中でそれが出来ませんというお話も聞きますので、今度、そういった対策というところも、包括にあるといいな、もしかして説明があったかもしれないと思いながら、意見を言わせていただきました。そういったところも、よろしくお願ひしたいと思います。

○事務局

貴重な御意見として承ります。家族介護支援という面がなかなか弱い部分は地域包括支援センターの中ではございまして、現在取り組んでいることとしては家族介護教室ですとか、また認知症カフェ等への活動支援は行っている包括もあると聞いております。

その部分、さらに一歩進んで、例えば虐待してしまったという反省を、その他にしゃべりたいという方の、ピアサポートのような、そういった関係づくり等につきましては、今後関係機関の皆様いろいろな力を借りながら、包括だけではなく、熊本市全体にそういった仕組みができたらというところで、我々もいろいろ考えてまいりたいと思っております。

○本庄副会長

吐き出すだけでも、かなりお互いの気持ちが分かって、うちも一緒なんだという思いだけでも楽になる部分はあると思います。

それぐらい非常に大事だと、また、この辺も、試みがあったらまた次回お願ひします。

○事務局

ちょっと補足ですが、認知症初期集中支援チームをつくらせていただいています。

各区の福祉課には、専門のチームをつくってということで、福祉課と包括との連携に、専門医とも連携をさせていただいて対応をしている、そういうような連携体制での対応もござ

います。

○小山委員

その件は、確か、はつらつプランでも提案されて、実施されていると思います。各区の福祉課に、認知症のサポーターみたいな感じでいらっしゃると思いますが、住民からの直接相談は受け付けていない、あくまで包括を通して、と聞いたが、それでは市につくったとしても、あまり意味がないと感じる。

6年ほど前からその認知症の支援員は各区役所に1人ずつ配置されたと思う。その人数的なところでもまず不足するでしょう。そして、住民からの相談を直接は受け付けない、あくまで包括を通してというふうに聞きましたので、じゃあ何をするの、とちょっと言ったことがあるのですが、それは今、改善されているんですか。

○事務局

御相談を受けておいて、それを包括で相談してくれということはないと思っています。

そして、区の体制についても、保健師に加え、ケアマネジャーも追加で体制を整えていますので、以前からすると充実をさせていただいております。

○小山委員

基本、後方的な動きがメインになっていて、実際悩みの相談や受け付けは、回答する人があまり動けないということを知ったので、そのあたりは改良されたのかなど。

こちらに申し上げていいのか、それとも違う種なのかちょっと私は判断出来ないんです。

先ほど藤井委員がおっしゃった、認知症カフェのようなものはとても大事だろうと思う。それから地域に認知症とわからない状態で、認知症でいらっしゃる方が、増えているという状態を考えると、それを見ている家族の負担はとても大きい。

それで、場所次第では包括が、旗振り役に認知症カフェを作っているところがあると聞いています。そういった点は、ぜひお力添えをいただけると、地域住民としては助かるな、と思います。

○長尾委員

関連が直接あるかわからないが、先ほど介護予防サポーター養成講座を行政がやっていくというような中で、実は認知症のリーダー研修等、認知症だけに関わる、講習会みたいなものが、10年前頃からずっとやってきている。私も10回ぐらい受けた。先ほど言われたように、結果としては、講習を受けながら、何もしなくていいですよ、というのがずっとつながってきている。

熊本は特に、知事が最初に声をあげ、全国的にもそういう養成をされて、関わってくる人たちが多くなったので、それはいい面ですけれども、結果としてその講座を受けたり、リーダ

一講習を受けても、何もしなくていいですよというようなものは、私にはあまり合わなかった。最終的に、今の、初期支援の体制のチームとかいうものに何かつなげられたのではというのもある。

結果として、素人なので、あんまりいろんなことは出来ない。でもその何もしないでいいですよという言葉がずっとつながってきたような形で、今の状況を招いてるのかなあとという思いもある。そうするとやはり、もう少しその研修内容というか、受講したその人たちにもある一定の、どう表現していいか分からないが、権限のようなものを、やっぱり持たせていただくと、その人たちをさらに、また、自分たち自身がレベルアップして、何かいい方向につながっていくんじゃないかなあと、いつも思う。その辺もぜひ研修内容など何かちょっとさわってほしいなと思う。

○本庄副会長

すばらしいですね。おっしゃるとおり、先ほどお話がありましたように早期発見のための知識普及だけでも、かなり骨格になりますよね。

ほかには御質問ございませんか。

○事務局

先ほど育成しっぱなしという介護予防サポーターの話もありましたが、それと同じ問題であると考えています。実際の、フォローアップ研修等をさせていただいて、より実践的な、よりニーズにマッチングするような、そういった形をとっていきたいと思います。

○本庄副会長

恐らくそのようなニーズは、地域ごとに違うと思うので、まさに地域包括の出番だと思う。うちの地域ではこういうことをやってほしい、こういうことをやると助かる、というのを議論するような場があるだけでも良い。ぜひ御検討いただければと思います。

それでは今の議事に関して、大体出尽くしたということで、承認ということでよろしいでしょうか。

<委員から意見なし>

では承認させていただきます。 【議事1承認】

議事(2) <次期地域包括支援センターの受託者の選定手続きについて>

※公募手続きに関する内容のため非公開

【議事2承認】

その他 （報告1）令和5年度 地域包括支援センターの重点的取組
（報告2）障がいを抱える高齢者への支援体制の強化について
（報告3）地域包括支援センターの移転について
《事務局から説明》

○本庄副会長

報告事項でしたが、何か御質問や御意見はございませんでしょうか。

○貴田委員

報告2の研修会、Teamsでのオンライン研修会等に、参加もしくは視察等、見せていただくことはできますか。

○事務局

Teamsを使ったオンライン研修会につきましては、問題ないかと思っております。

1番目の研修会につきましては、例えば参加者としてではなく、見学者としてであれば、御案内できるかと思っておりますので、確認しておきます。

○本庄副会長

ぜひ見ていただいて、またご意見いただければと思います。それは我々としても大事な仕事ですよね。

地域支え合い型サービスが、やはり少しコロナで衰退してきたということで、これを支援したいという話だったと思うが、この評価というか、その実行性はどうか。恐らく前の要支援の方々はこちらに行っていると思うが、その人たちが本当に介護予防につながっているかという不安もある。その辺の評価等は出来ているのでしょうか。

○事務局

その点は、まだできていないです。

○本庄副会長

難しいですね。

○事務局

中には、健康運動指導士が介入して、運動の指導をしている場所もありますが、折り紙というような活動をしている場所もあるので、全てが要介護度の改善につながっているかというところは、見えにくい部分もあるのかなとは思っています。しかしながら、まずは、活動の継

続が1番かなと思いますので、そういった集まる場があることだけでも、随分効果はあるのではとっております。

○本庄副会長

包括の仕事は非常に多いと思うが、例えばそういうものをクラス分けして取上げていただくとか、そういうものもあつたらありがたいなと時々思うことはありますね。

いかがでしょうか。

障がい者の事件もあつたと思うが、確か前回の会議のときに不審者への対応ということが上がっていたと思う。この辺も話が進んでいるんですか。

○事務局

そのことを含めまして報告2の研修会をまずは開催させていただきたいと思っています。

○本庄副会長

研修会でみんなで勉強する、ということですね。

相談、連絡、緊急対応の仕方とかその辺の具体的な対策みたいになってるんですか。

○事務局

昨年度は警察との連携、不審者対応訓練の研修を行っていただきました。

○本庄副会長

なかなか警察も介入しにくい部分があつたりしますよね。例えば東京で猟銃を撃つた事件もありましたね。そういうことが熊本でも起こらないだろうかという心配はある。そういうものに関して、もちろん情報を共有して手探りの状態ではあると思うが、まずはこういう手もあるんですよみたいなことも、ちょっと警察から具体的に話をいただくと良いですよ。

○事務局

相談をします。

○藤本委員

同じ項目での、ケアマネ協会としての御依頼というような内容になるかもしれませんが、今回の、現場のケアマネジャーが障害を受けたということで、職能団体としても、パワハラであつたり、そのような対応をする仕組みづくりや、何か支援が出来ないかということを考えているところではある。今回、行政のほうから研修をしていただけるということで、実際

研修だけで、知識を現場のほうに落とします、だけでなく、今回の背景を見ても、ここで、もう少し情報や連携が取れていたらまだ何とか対応が出来たんじゃないかというようなところも反省として上がってるというのは聞いてます。この(2)の組織体制、障がい者相談支援センターとの連携等、この連携や協力の体制をさらにとれるような、御提案をいただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

○事務局

ご指摘ありがとうございます。なかなか、これをやれば全てが解決するという手立てがない中で、あれもこれも、といろんなことをやっていかないといけないのだろうと思いますけれども、例えば、障がい者相談支援センターと包括がすでに連携している地域があり、そこでは包括やケアマネさんの訪問に障がい者相談支援センターが同行して、一緒に支援しているという事例もあるので、そういった事例の横展開を図るとか、一つずつ、一歩ずつ、前に進んでいけたらなと思っています。

○本庄副会長

コロナ禍で変わった中には、直接訪問だけがベストじゃないねという考え方もありますよね。うまくこれを活用してもいいのかもしれないという、そういう問題のある方に関しては、最初は電話で相談するとか。具体的な方法が案外あるのではと思うんですけどね。ほかに質問事項はありませんでしょうか。それでは大体時間がきましたので、特に御意見がなければ、締めたいと思いますが、いかがでしょうか。

<委員からの意見なし>

それでは、本日の会議を終わりたいと思います。お疲れ様でした。

○事務局

次回は包括の公募を進めていく中で、10月下旬頃にこの会議を開催させていただければと思っています。包括の公募の進み具合をみながら、改めて日程調整をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

閉会